

# ともに・・・

R7. 5. 28

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

～5人で協力し、

学び楽しみ合う修学旅行にしよう～

5月19日（月）、本校の6年生が、佐賀・長崎・熊本の3県を巡る一泊二日の修学旅行に出発しました。この旅行は、本校の他、杵築市内の八坂、豊洋、護江、大内、東の各小学校6校による連合での実施です。

朝6時半、学校に集合し、おうちの人に見送られながら、子どもたちが乗ったバスが出発。途中八坂小学校の子どもたちも同じバスに乗り込み、トイレ休憩のために立ち寄った玖珠SAで他校のバスと合流しました。合計バス3台で、最初の目的地、吉野ヶ里遺跡に向かいます。

9時10分に現地に到着。入り口付近で、6校連合による結団式を終えた後、いよいよ施設に入ります。本校の子どもたちは5人一緒に巡ることになります。

遺跡に入ると、学校ごとで集合写真を撮りました。さあ、見学です。目に入った物見櫓に登ることになりました。「高い！」「怖い！」「足がぶるぶる震えた」と、櫓の高さにみんな驚いています。散在するさまざまな竪穴住居を見学する中で、「王の家広い！」「こちらの家の方が豪華！」と、感じたことや気づいたことを口々に発しています。竪穴式という独特の住居の構造に、それぞれに目を奪われていました。資料館では、甕棺が置かれてあり、内部の構造もよくわかりました。弥生時代の埋葬の仕方もあり、現代との違いにも目を向けることができました。

10時50分に遺跡を後にし、12時半過ぎに長崎市内に到着。早速昼食となり、長崎名物のトルコライスをお腹にしました。朝が早かったからか、食欲旺盛な子どもたちでした。

昼食を終えると、平和公園、原爆落下中心地、原爆資料館の見学です。原爆資料館では、子どもたちはファットマンと呼ばれる長崎に落とされた原爆の実物模型前で足が止まります。また、熱で溶けたガラス瓶に目が釘付けにもなっています。たった一発の原爆で、自身が想像していた以上の被害があったことがわかり、大変驚いている子どもたち。「歴史や文化が壊れてしまう。原爆がなくなればいい・・・」と語ってくれたように、子どもたちは原爆がもたらした悲惨さを、展示物を通して強く感じたようです。

平和の尊さを改めて認識し、自分たちが平和な世の中を築

いていかなければならないという強い思いを持ったにちがいありません。

その日の宿泊地は、島原市内のホテル南風楼です。夕食には島原名物の具雑煮やかんざらしがついた豪華な食事に舌鼓。夕食を終え、だんだんと他校が部屋に引き上げていきますが、本校の子どもたちは、ゆっくり夕食を楽しんでいるようです。会場には本校の子どもたちしか残っていません。次の入浴時刻に間に合うかなと気がかりでしたが、時間管理は子どもたちに任せることにしていたため、様子を静かに見守っていました。一番最後に会場を後にした子どもたち。しかしながら、直後の入浴時刻には本校の子どもたちが一番に浴室に集合できていたとのこと。夕食前に入浴の準備を済ませてから食事に行こうと自分たちで考えていたのだそうです。

子どもたちなりに夕食を最後まで楽しみ合い、時間を守り次の行動ができていたことを、心強く感じたところです。

2日目は、8時にホテルを出発。最初の見学地は、雲仙普賢岳の噴火について学ぶ雲仙岳災害記念館です。

多くの犠牲者を出した1991年6月3日当日の災害について紹介する映像を見た後、子どもたちは被災した車やカメラなどの実物展示を見て回ります。そして、時速100kmの速さで流れる火砕流のスピードを光の演出で体感する施設では、子どもたちは迫りくる光の火砕流から逃げようとしてみましたが、「めっちゃ、速い！！」「走って逃げようと思ったけど、無理だった」と、あっという間に火砕流に飲み込まれてしまう脅威を感じたようです。



修学旅行最後の行き先は、熊本県のグリーンランドです。事前に、5人で遊ぶアトラクションを決めていたようで、「スフィンクスコースター」「レーザーシューティング」・・・と、予定通りのアトラクションを制覇でき、子どもたちの表情も満足気です。

行きたいアトラクションに全て行き、時刻を確認したところ、なんと集合時刻までまだまだ時間があります。そこで、「どこに行く？」と、5人で相談。それぞれの思いを大事にしながら、メリーゴーランドなどのアトラクションをさらに楽しみました。

5人それぞれに、充実した思い出の時間となったようです。

6年生は、この修学旅行のめあてを、『5人で協力し、学び楽しみ合う修学旅行にしよう』と決め、準備し、当日を迎えました。私たち教職員は、集合時刻などの必要最小限の指示にとどめ、後は子どもたちに任せ、自分たちの判断のもと行動させるようにしました。この2日間、子どもたちは、集合時刻を守りつつ、めあて通り「5人で協力」「学び楽しみ合う」修学旅行ができたようです。5人それぞれに、かけがえのない思い出となった修学旅行。ここでの学びをこれからの学校生活に活かして、下級生をリードしてほしいと願っています。

